

会長通信 No. 18

2016年10月18日

(一社) 岩手県中小企業診断士協会

会長 宮 健

目次	1. 北海道・東北ブロック会議報告
	2. 理論政策研修会が終了しました
	3. 7月以降の主な動きについて
	4. 経営診断学会との合同発表会にどうぞ
	5. 新入会員のご挨拶
	【付】その他添付資料 4件

1. 北海道・東北ブロック会議終了報告

平成28年度の北海道・東北ブロック会議は当協会が幹事となり（毎年持ち回り）、10月14日（金）13時～17時にホテルメトロポリタン盛岡（本館）4Fで開催されました。協会本部から、福田尚好会長、野口正専務理事、小沢一英業務部長の3人にお越しいただき、7道県の各協会からは会長など（各2名）が参加されました。当協会からは、会議メンバーの会長、山火副会長の2名に加えて、オブザーバー兼運営委員として菅原繁雄理事、工藤伸一理事、船越拓（事務局）が出席しました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

ブロック会議は、全国8ブロックで毎年開催されるものです。

当日の会議内容・スケジュールは、以下のとおりです。

(1) 開催権協会長挨拶／出席者自己紹介等 13:00～13:10

(2) 本部報告（質疑応答を含む） 13:10～15:00

①新輸出大国コンソーシアムについて

（中小企業庁の「中小企業等に対する海外展開支援について」および
ジェトロの「新輸出大国コンソーシアムの進捗状況について」の説明等）

②ローカルベンチマークについて

（中小企業診断協会の「中小企業支援におけるロカベン活用と留意点」
および金融庁の「金融仲介機能のベンチマーク」の資料説明等）

③その他

（11月4日の「中小企業診断士の日」の制定について および

11月8日の「中小企業経営診断シンポジウム」について など）

※中小企業診断士の日は、昭和23年11月4日にわが国の「中小企業診断制度」が発足したことに由来するものです。

（休憩）

15:00～15:10

(3) 各協会の報告

15:10～17:00

①各協会の活動状況報告と情報交換

※各協会報告については毎年テーマが示されています。当協会の報告要旨を後掲したのでご覧ください。

②その他

(4) 閉会挨拶（次回開催県【青森県】協会長）

会議は時間通りに進行し、出席者のあいだで活発な質疑応答などが行われて有効な情報交換の場となりました。

なお会議終了後恒例の懇親会が同ホテルで開催され、交流を深めました。

【ブロック会議の写真】



会議全体の様子



宮会長による開会挨拶



福田会長(協会本部)による報告



平野会長(北海道)による乾杯挨拶

2. 理論政策研修が終了しました

平成 28 年度の理論政策研修が 9 月 3 日（土）に、予定どおり開催されました。

詳しくは後掲の土岐先生の報告書をご覧ください。

3. 7 月以降の主な動き

- ①7 月 1 日（金） 「会長通信 No. 17」発行
- ②9 月 3 日（土） 理論政策研修開催
- ③9 月 21 日（水） 県中小企業団体中央会大会に出席（宮）
- ④9 月 28 日（水） 県生活衛生営業指導センターの評議員会に出席（宮）
- ⑤9 月 29 日（木） 県産業振興センター理事会、監事会に出席（宮）
- ⑥10 月 14 日（金） 診断協会北海道・東北ブロック会議に出席（宮、山火他）

4. 経営診断学会との合同研究発表会にどうぞ

毎年恒例の標記催しを 11 月 12 日（土）14:00 から 17:00 まで、アイーナの県立大学キャンパスにおいて開催します

スケジュールは以下のとおりです。会員多数の参加（発表会、懇親会）を希望します。

（1）基調講演 「診断学会と診断士協会とのコラボについて」（宮会長）

前述のとおり 11 月 4 日は「中小企業診断士の日」です。ほぼ 1 週間遅れですが、診断士の日のイベントの意味も含めて、診断学会との 10 年間に及ぶコラボレーションの歩みを振り返ってみようと思っています。併せて、診断士制度の変遷についても触れたいと思います。

（2）研究発表

詳しくは後掲の資料をご覧ください。

5. 新入会員のご挨拶

木津川浩司会員（一関信用金庫勤務）からいただいた原稿を後掲いたしましたのでご覧ください。

【付】 その他添付資料

- ① 「中小企業診断士の日」のポスター（協会本部作成）
- ② 「中小企業経営診断シンポジウム」のご案内（同）
- ③ 平成 28 年度県協会活動状況報告（岩手県協会）
- ④ 岩手日報「ばん茶せん茶」平成 28 年 8 月 20 日掲載のエッセー「赤レンガ館」（宮）

以上

平成28年度理論政策更新研修の開催報告

更新研修担当 土岐 徹朗

今年度の理論政策研修が開催されましたので、その報告を申し上げます。

1. 開催日時 平成28年9月3日(土曜日) 13:00-17:00
2. 場所 岩手県自治会館
3. 出席者 108名(内36名が会員)の方々にご出席いただきました。
4. 研修内容の紹介

新しい中小企業施策について

講師：東北経済産業局産業部経営支援課課長補佐兼総括係長
酒井原 啓人 先生

☆今年度の中小企業支援策に関して、経営発達支援事業と中小企業等経営強化法を中心に、とてもわかりやすく懇切丁寧に解説していただきました。

1. 中小企業・小規模事業者を取り巻く現状(環境と課題)
2. 中小企業・小規模事業者支援の政策の方向性
3. 地域における経営支援体制(認定支援機関と全体像)
4. 認定支援機関等に活用頂きたい支援ツール

計画作りでイメージトレーニングをしてから、身体を動かす(経営実践をする)と効果的です。



岩手県内の農業経営

講師：岩手県農林水産部農業振興課担い手対策課長
菊池 政洋 先生

☆岩手県における農業の担い手の確保・育成の動向を、テンポ良くしかも詳細に紹介していただきました。

1. 本県農業の現状
2. いわて県民計画 ☆長期ビジョン☆(平成21~30年度)
3. 本県農業の担い手の確保・育成のイメージ
4. 本県農業の主な課題と取組(担い手育成関係)



1年かけてアグリフロンティアスクールを開催しているのは岩手県だけです。それだけ、じっくりと担い手を育成したいと思っています。

事業承継支援のポイント

…事業承継「コーディネート機能」発揮のために

講師：独立行政法人中小企業基盤整備機構東北支部
事業承継コーディネータ 渡辺 敬一 先生

事業承継コーディネータとしてのお立場から、具体的に事業承継支援のポイントをご紹介いただきました。

1. 「事業承継」の現状について
2. 「事業承継」と「知的資産」について
3. 「事業承継」支援のステップについて
4. 「コーディネート機能」発揮のための支援のポイントについて
5. 事業承継税制・法制の概要について

中小企業診断士が事業承継支援に関わるコーディネーター役となって、「経営権」だけでなく、「経営力」の承継を促進していくことが大切です。



ご受講いただいた皆様、当日は大変お疲れ様でした。

平成 28 年度 日本経営診断学会東北部会研究発表会

日時 2016 年 11 月 12 日（土曜日）14：00～17：00

場所 いわて県民情報交流センター（岩手県立大学アイナキャンパス）7 階 学習室 1

協賛 一般社団法人岩手県中小企業診断士協会

■開会の挨拶 14:00-14:05（宮 健 日本経営診断学会理事・東北部会長）

テーマ及び発表者

■基調講演 14:05-14:50

一般社団法人 岩手県中小企業診断士協会会長 宮 健

テーマ：診断学会と診断士協会とのコラボについて

■自由論題 15:00-16:40（1, 2. 発表 20 分、質疑 10 分）（3. 発表 30 分、質疑 10 分）

1. 岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科 小西 貴之

テーマ：未熟練者を対象とした作業手順表示システムの開発と外観検査業務への適用

2. 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 堀川 三好

テーマ：移動するモノを対象とした製造プロセス向け IoT の提案

3. 岩手県中小企業診断士協会・岩手県立大学 菅原 光政

テーマ：農業会計に関する研究調査報告

■閉会の挨拶 16:40-17:00

（五十嵐幸枝 日本経営診断学会・山形県中小企業診断協会会長）

懇親会（17:30～19:30）をやまなか家 大通り店にて行います。

ご都合のよろしい方は是非お越し下さい。

お申込みは別紙によりお願い致します。

平成 28 年度 日本経営診断学会東北部会研究発表会
出席申込書

岩手県中小企業診断士協会 行
(FAX 019-624-1266)

ご所属
ご担当
連絡先

標記について、下記の通り申し込いたします。

	お役職等	お名前	会議 出欠	懇親会 出欠
1				
2				

(○印をご記入下さい)

以上

会議概要

日時 2016年11月12日(土曜日) 14:00~17:00

場所 いわて県民情報交流センター(岩手県立大学アイナキャンパス) 7階 学習室1

懇親会 やまなか家 大通り店 17:30~19:30



岩手県中小企業診断士協会の皆様へ

はじめまして、木津川 浩司（きつかわ ひろし）でございます。

この度は、岩手県中小企業診断士協会に入会させていただきまして、誠にありがとうございます。

出身地は一関市で、座右の銘は、「深沈厚重（しんちんこうじゅう）」です。

平成8年に中小企業診断士(鉱工業)資格を取得し、県内金融機関の企業内診断士として、中小企業等の各種課題解決に向け、微力ですが尽力して参りました。

現在は、県内金融機関を早期退職し、昨年11月から一関信用金庫に勤務しております。

当金庫では、中小企業金融円滑化が終了し、抜本再生に向け DDS・DES 等多様な金融手法が確立されておりますが、事業性評価の視点から事業価値を高めるため金庫内診断士と連携を図りながら事業再生に取り組んでおります。

今後の地域金融機関は、地方創生の基本方針である日本版DMOの組織化や日本版CCRの推進、まちづくりにおける官民連携と地域連携への積極的な参画や中小企業対策として、中小企業等経営強化法等による経営力の向上や経営承継円滑化法等を活用した計画的な事業承継対策への対応等、その実現のために企業力の発揮と貢献が強く求められております。

これからも、確固とした己の信念を持って、中小企業診断士として、地域金融機関の職員として、その役割を果たすとともに、「一生現役として地域のために、中小零細企業のために尽くしたい」との自己実現の達成に向けて、邁進して参ります。

結びになりますが、中小企業診断士としても、まだまだ、知識も浅く、経験や実績もありません。

引き続き、宮会長をはじめ、岩手県中小企業診断士協会ならびに諸先輩方のご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

以上

平成28年9月
木津川 浩司

11月4日は中小企業診断士の日

昭和23年11月4日、我が国の「中小企業診断制度」が発足しました。

当協会では、中小企業診断士の活動を発信するために、
11月4日を「中小企業診断士の日」として制定いたしました。



SMECA

一般社団法人 中小企業診断協会

会員中小企業診断士バッジが新しくなりました

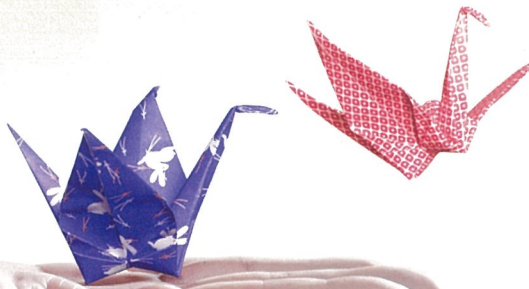
私ども中小企業診断協会では、中小企業診断士のブランドを確立し、中小企業診断士の意義等を広く社会にアピールするためのブランディング戦略の一環として、このたび新たな「会員中小企業診断士バッジ」を製作し、着用を推進していくことといたしました。

【バッジデザインのコンセプト】

羅針盤をモチーフにして、シンプルかつ重厚で、長く身に着けていても古さを感じさせないようにデザインしました。羅針盤は、中小企業の輝かしい未来を指し示す「中小企業診断士の使命」を表現しています。また、主に直線で構成された図柄は、「ぶれない誠意」を表しています。シャープなイメージは若々しく、そして、斬新すぎることがない、愛着を持って身につけられるデザインになっています。



はばたけ 日本の 中小企業



2016年スタート!



中小企業経営診断シンポジウム

新たな経営課題への挑戦と経営革新 — 企業と共に未来を拓く中小企業診断士 —

2016.11.8(火)

10:30-17:30 会場:東京ガーデンパレス

参加費無料

どなたでもご自由にご参加いただけます。
ご参加の方は、WebまたはFAXにて事前登録が必要です。

同時開催 無料経営相談会 / 13:00-16:00

中小企業経営診断シンポジウム

主催 (一社)中小企業診断協会

後援
(予定)

中小企業庁 / 関東経済産業局 / 日刊工業新聞社 / (独)中小企業基盤整備機構
日本商工会議所 / 全国商工会連合会 / 全国中小企業団体中央会 / 日本経営診断学会

一般社団法人 中小企業診断協会

<http://www.j-smeca.jp/>

平成28年度県協会活動状況報告

(協会名： 岩手県協会)

1. 中小企業診断士のブランディング化への取り組みについて

(「中小企業診断士の日」のイベント内容ほか、取り組み内容を記載してください)

診断士の日の取り組みに関しましては、11月12日(土)に日本経営診断学会東北部会との合同研究発表会を予定しており、これを取り組みの一環として扱う予定。

その他、診断士バッジを希望者に無料貸与し、知名度の向上に取り組む。

2. 海外展開支援事業の取り組みまたは今後取り組みたい内容について

協会として今のところ海外展開支援事業に取り組む予定はない。会員個々の裁量で取り組んでいる事例については、特に把握していない。

3. その他

①岩手県など公共団体等からの委員就任(会員推薦)などの依頼が増えている。

②東日本大震災以降、特に「中小企業診断士」の活躍の場が増えている。

③診断士の知名度(資格、協会、会員個人)が高まっていることを実感している。

ばん茶
せん茶

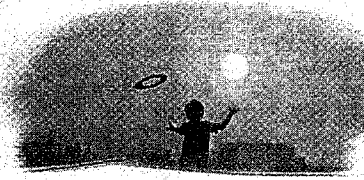


イラスト
谷村 享二

盛岡市中ノ橋通にある岩手銀行旧本店(旧中ノ橋支店)の赤レンガの建物(国の重要文化財)が、3年間にわたる保存修理工事を終え、「赤レンガ館」として一般に公開された。建物自体は1911(明治44)年の完成であるから、105年の風雪に耐えてきたことになる。

盛岡市中ノ橋通にある岩手銀行旧本店(旧中ノ橋支店)の赤レンガの建物(国の重要文化財)が、3年間にわたる保存修理工事を終え、「赤レンガ館」として一般に公開された。建物自体は1911(明治44)年の完成であるから、105年の風雪に耐えてきたことになる。

盛岡市中ノ橋通にある岩手銀行旧本店(旧中ノ橋支店)の赤レンガの建物(国の重要文化財)が、3年間にわたる保存修理工事を終え、「赤レンガ館」として一般に公開された。建物自体は1911(明治44)年の完成であるから、105年の風雪に耐えてきたことになる。

盛岡市中ノ橋通にある岩手銀行旧本店(旧中ノ橋支店)の赤レンガの建物(国の重要文化財)が、3年間にわたる保存修理工事を終え、「赤レンガ館」として一般に公開された。建物自体は1911(明治44)年の完成であるから、105年の風雪に耐えてきたことになる。

14(大正3)年にオープンした東京駅の設計者として知られる辰野金吾、盛岡市出身の葛西万司両氏の設計であることはよく知られているが、全国にいくつか現存する両氏の設計になる赤レンガの銀行建物のうち、100年余にわた

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

赤レンガ館

宮 健

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入

私は55年4月に、新入行員として岩手銀行(当時は岩手殖産銀行)の門をくぐった。月日の流れは早いもので、今から61年前のことになる。入